



2021年(令和3年)
4月号(No. 911)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

若いころとは違う経験ができた 67歳からのヒマラヤ・トレッキング

安藤哲雄

「ヒマラヤを見に行きたいが、年齢が……」と二の足を踏んでいる人が多いのではなからうか。先ごろ『ヒマラヤを歩く―60歳からのネパールトレッキング』(山と溪谷社刊)を上梓された安藤さんに、高齢者でも味わえるヒマラヤの魅力と、トレッキングの楽しみ方、注意事項などをアドバイスしていただいた。

67歳でヒマラヤ初見参

ヒマラヤ山脈とは中国、ブータン、ネパール、インド、パキスタンにわたって連なる一大山群で、とりわけ高山岳がそびえる山脈をグレート・ヒマラヤ(大ヒマラヤ山脈)と言う。なお、パキスタン北東部にあるカラコルム山脈もヒマラヤと言って差し支えないだろう。ここにある氷雪と岩だけの山を見に行く旅が、ヒマラヤ・トレッキ

ングである。これは健康と意欲があれば、高齢になってもできる。ただ、旅であるから好奇心を持っていることも大切である。

「隠居」という言葉があるが、隠居してから好きなことをして暮らす人は多い。過去の人で有名なのは松尾芭蕉、伊能忠敬、渋沢栄一などが知られている。山歩きが好きな人にとつては退職後の自由な時間が使えるので、高齢者の山歩き

目次

若いころとは違う経験ができた 67歳からのヒマラヤ・トレッキング …… 1	
ガルワール・ヒマラヤでの氷河崩壊と 下流への岩屑なだれ(土石流)災害 の報告 …… 4	
「2020植村直己冒険賞」は、ドルポで 単独越冬した稲葉香さんに …… 7	
地域発「山の日」レポート⑦栃木支部 …… 8	
追悼 平井一正先生を偲んで …… 9	
連載 島の山旅への誘い④ …… 10	
図書紹介 …… 13	
図書受入報告 …… 13	
会務報告 …… 16	
ルーム日誌 …… 17	
新入会員 …… 17	
会員異動 …… 18	
INFORMATION …… 19	
編集後記 …… 19	

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
★新型コロナウイルス感染防止対応のため、当分の間、取扱時間を短縮します。平日13時～20時



タムセルク(右)とアマ・ダブラムを見上げながらタンポチェへ

が増えたことは当然であろう。

ヒマラヤに行くということは、今の日本では特定の人でない限り退職した人でなければできない。サラリーマンが行こうと思えば、会社を辞める覚悟で行くことになる。国内の山なら若者も休暇を

取っていきけるが、ヒマラヤとなると最低2週間にかかる。だから、ヒマラヤも高齢者が増える。私はむしろこれは健全だと思ふ。定年退職後の過ごし方は自由であるが、燃え尽き症候群で酒びたりになる人や、クルーズ船やツアーの外国旅行で過ごす人や、ゴルフ三昧の人に比べれば良い人生の過ごし方ではないかと思う。60代であれば、本格的な雪山までは無理としても、長時間の山歩きができる体力のある人は多いはずである。

私は60歳でサラリーマンを退職し、若いときに行けなかった国内の山をたくさん歩き、67歳のときからヒマラヤに行き、12年間で23回歩いた。気が付いたことは、旅行社のツアーに日本人は多いが、奥地ではほとんど日本人に会わな



北面のサムドから見たマナスル山群。マナスルは左の鋭峰

かったことである。会ったのはドイツ人かフランス人がほとんどであった。なぜなのかが分かるまでに6年かかった。

ひと言では説明できないが、つまりはトレッキングを企画するエージェン트에頼り過ぎることである。また、日本人の習性ともいえる集団行動への傾向である。私はネパールで、毎年のように来る人に何人も会ったが、彼らはいつも同じガイドであった。つまり、信頼できるガイドに出会わなければ、自分の行きたい所へは行けないのである。

日本の旅行社は、人が集まらないコースは催行しない。旅行社は



テントをのぞきにきた子どもたち。アッパー・ドルポにて

客を集めて、現地エージェン트에依頼する。現地エージェン트는ガイド、コック、ポーターを集めて、全てガイドに任せる。こうして経費がかさんでくるのは当然である。もし個人がガイドに直接頼めば、費用が安いのは言うまでもない。ただ、これができるのは信頼できるガイドに出会わなければならぬ。どうしたら出会えるか、決まった方法はない。ガイドなしで行くこともできるが、これはかなり経験を積まなければできない。

最も危険な高山病

登山ほどではないが、トレッキングでも危険はある。最も危険なのは

高山病である。これは体質によるもので、体力や年齢とは関係ない。登山同様、トレッキングでも万が一の場合、簡単には引き返せないこともある。一度は5000mまで行つて、自分の高度耐性を確かめておく方がよい。徐々に高度を上げて身体を慣らしていけばよいが、急に高度を上げると症状が出る人が多い。また、急病には対処できない。危険な所を歩くわけではないので怪我をする心配はないが、心臓などに疾患を持つ人は注意した方がよい。私の友人で、救援ヘリの中で亡くなられた方がいる。心筋梗塞であった。

もちろん、普段からの健康維持が最も大切であるが、歳を取れば誰でも体力は落ちる。だから、自分のペースで歩ける方法を選ぶしかない。村がある所であれば、季節によつては馬を雇うこともできる。1日6000Rs(ルピー)ぐらいだから、タクシーより安い。山を見ながら馬で行く旅は、大変な贅沢である(と私は思う)。

楽しむために予備知識を

もともと山歩きでは、頂に立つ達成感を味わうことも楽しみであ

る。ヒマラヤでも、実際に頂上から見る景色はすばらしい。体力さえあれば、6000m級のトレッキング・ピークには誰でも登れる。私は68歳でアイランド・ピーク(6189m)に登ったが、78歳でメラ・ピーク(6476m)に登った友人もいる。

山旅は、ガイドが説明をしてはくれない。ガイドは山の名前など有名な山以外はほとんど知らない。地図などであらかじめ調べておいた方がよい。そもそも、どこから見てもヒマラヤの山を同定できる人は少ない。

ヒマラヤの山はただ見るだけでもすばらしいが、登山や旅行にまつわる物語を知っておけばなお楽しい。登山家や旅行者の物語を本で読んでおけば一層興味も湧く。登山家ではジョージ・マロリー、ヘルマン・ブルー、ラインホルト・メスナー、小西政継などが面白い。探検旅行記では河口慧海、スネル・グローブ、川喜田二郎の本がある。自分にとって登山家の遠征記録などは面白くないが、自分の人生を懸けた話は心を打つものだ。

山歩きの経験者なら分かるように、楽しさの全ては天候次第であ



氷河上のランチ。カラコルム・バルトロ氷河の支流にて

る。たとえばネパール・ヒマラヤでは、シーズンが限られる。6月から10月中旬までは雨季で、ほとんど期待できない。ただ高山植物などの花を楽しむには、この時期が良い。最も晴れる期待を持てるのは、10月末から11月までである。限られた日程で期待外れに終わった人が多いことも、知っておいた方がよい。

変わりゆくヒマラヤの自然

『世界の屋根』と言われるほど広大な山脈であるから、どこも同じ自然が広がっているわけではない。もちろん、氷雪を頂く白峰を見に行くことが目的であるが、周辺に

は日本では見られない自然環境がある。大きく分けるとネパール・ヒマラヤのほぼ真ん中を流れるカリ・ガンダキの谷の東と西。それとパキスタンのカラコルム山脈である。カリ・ガンダキから東は豊かな渓谷と森林が多い。カリ・ガンダキから西は大木の少ない広大な高原である。そして、カラコルムは長大な氷河と氷河で削られた岩峰からなっている。白峰に近づく渓谷には、そこで生活する人々の村がある。生活の基盤は農耕と牧畜で、貧しいが人々の顔は活き活きとしているように見える。

白峰から流れる氷河は近年、地球温暖化のため急速に小さくなっている。私はこれを実感したことがある。2007年にネパール・ヒマラヤで最大の氷河ゴジュンバ氷河の奥で国境に連なる白峰を見た。そして、15年に同じ場所から山を眺めた。どう考えても、立っている位置の高さが低い。氷河の高さが下がったのである。また、ガイドに聞いた話であるが、ピークに登るルートの水が消えてなくなってしまったため、危険で登れなくなつたと言うのだ。

60年前からネパール・ヒマラヤを

調べている川喜田二郎の本によると、もうすでに自然環境は変わってきているという。ネパール側の木は、長年にわたって木のないチベットへ運ばれた。一昨年、ドルポで聞いた話では、山村の村人たちの唯一の現金収入である冬虫夏草は、ほとんど採れなくなつたと言う。奥地の集落は廃村が多く見られる。かつてチベットとの交易で栄えた道は閉ざされ、中国へつながる車道の建設がどんどん進んでいる。何億年もかかってできた自然を、人間は数十年で変えてしまふのだろうか。

なぜ今、ヒマラヤなのか

トレッキングは登山とは違う。スポーツのように他人の評価を受けるものでもない。見たことがない景色や、そこに住む人々の生活に出会うことが楽しみなのである。自然の美しさならば、日本の山の方が良いと思う。ヒマラヤ以外の世界中の山を歩いたわけではないが、美しい景観はピンポイントの場所と時間にある。多くの山歩き愛好家は、写真を撮るのが趣味である。デジタルカメラも進歩し、昔のようなプロの腕を必要としなく

なつた。しかし、それだけが目標であらうか。山と海と森に恵まれた日本人が、海を見たことがない人々の生活を見て、ただその素朴さにあこがれを持つだけなのだろうか。都市化した社会に住む我々が、その対極にある世界を見て、自分たちの生き方を考えることも大切だと思うのである。体力に任せて歩く、若いころとは違う経験をしなければ、ヒマラヤを歩くことをお勧めする。

2020年に始まったパンデミックは、世界中の人々から旅を奪つてしまった。ヒマラヤは動かない。見せてくれる景色は、時と場所ですべて違う。また行けるときに来たとき、どんな姿が見られるのか楽しみだけである。



筆者が著した『ヒマラヤを歩く』の書影

REPORT

ガルワール・ヒマラヤでの氷河崩壊と
下流への岩屑なだれ(土石流)災害の報告

長岡正利

2月8日早朝のNHK・BS1のワールドニュースで、インド・ヒマラヤでの氷河崩壊と、それが岩屑なだれとなって山麓の河谷を流下する状況が放映されました。インターネット版の英国BBC放送や米国CNNなど、世界の主要メディアでも報じられ、岩屑なだれが流下する怖ろしい動画は、今も閲覧できます。それらの報道内容に基づき、私見を加えて報告します。

災害の概要―どうして何が

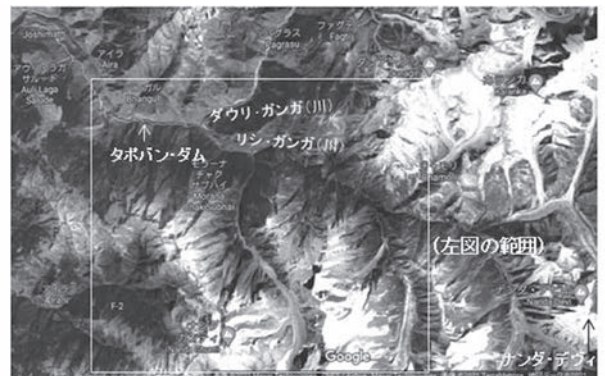
インドの東のベンガル湾に注ぐガンジス川(Ganga)の上流で、ウッタラーカンド州にあるヒンドウー教の聖地・ハリドワールやリシケシの上流はアラクナンダ川と呼ばれ、さらに上流の支流はダウリ・ガンガとなるが、その上流域にあるインド第2の高峰ナンダ・デヴィ(7816m)の西方で、2月7日の懸垂氷河崩壊を発端として、下流に大被害がもたらされた。

ナンダ・デヴィ一帯は、ユネスコの世界遺産リスト登録の「ナンダ・デヴィ国立公園」である。また、前述のアラクナンダ川を上流へ行けば、同遺産の「花の谷国立公園」に至り、シク教の聖地・ヘムクンド湖や、カメット(7756m)もある。

諸外国での報道では、Flash Flood

(鉄砲水・洪水)などとするものが多いが、実際には水の量は少なく、爆風を伴いつつ高速で流下する、破碎された崩落水河塊と岩盤崩壊物が混じり合った、「岩屑なだれ」というものであろう。

被害は、すぐ下にあつたリシ・ガンガ水力発電所をそのまま掃流させて35人が不明。下流でダウリ・ガンガに合流して、建設途上のタポバン・ビシユヌガド水力発電所の取水ダム堤体を越流し、上部構造を破壊した。工事中の水路トンネルにも流入して、2月8日のBBCは26人死亡で、150人を捜索中と報じていた(報道各社とその報道の日時によって、被害状況はまちまち)。

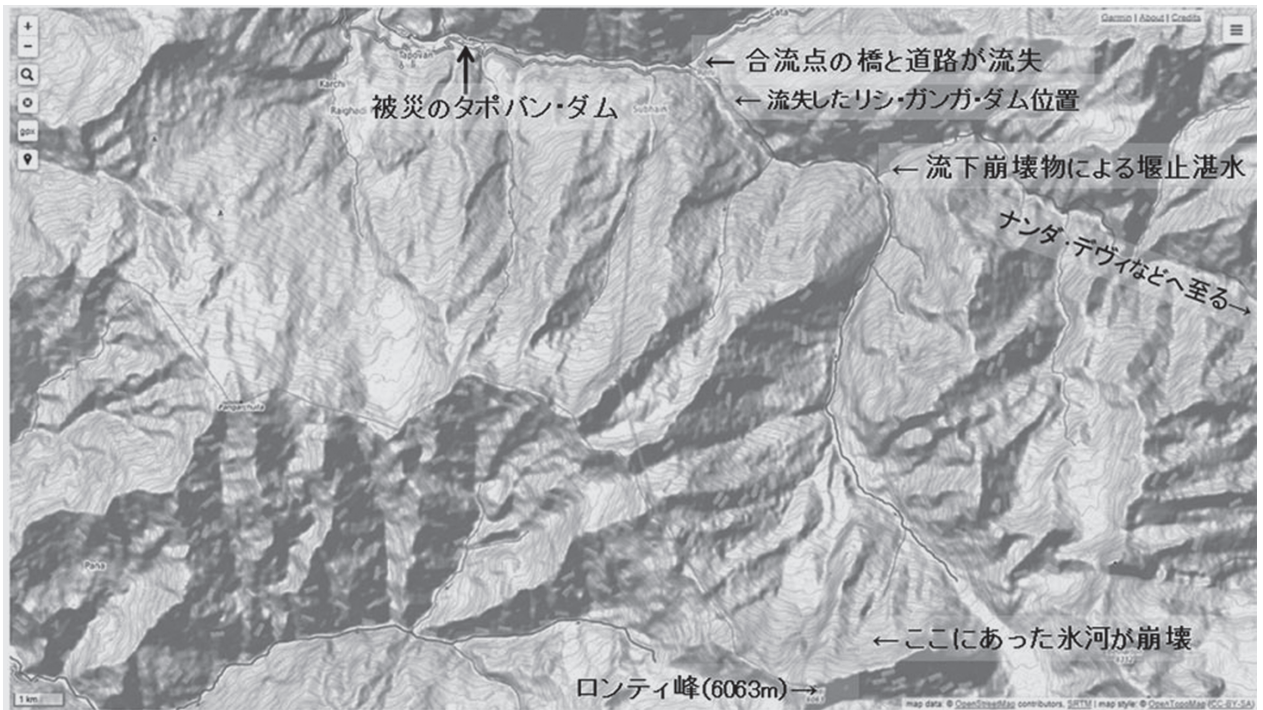


崩壊氷河と岩屑なだれによって破壊されたタポバン・ダムの位置(© Google Map)。左の崩壊・被災地の概念図も参照を

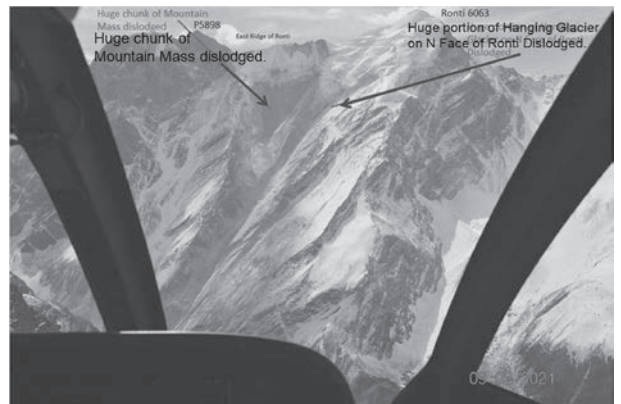
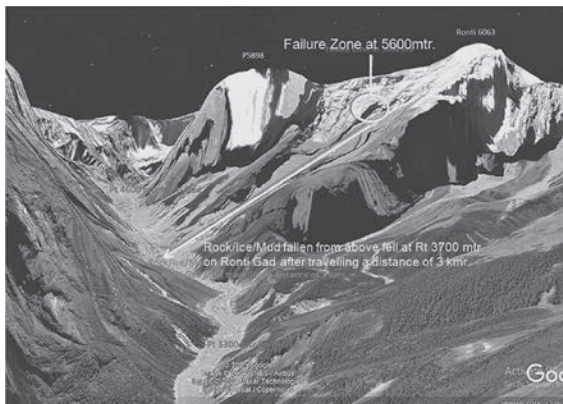
なお、ウッタラーカンド州とは、日本からのインド・ヒマラヤ登山が盛んであつた時代からよく知られていたウツタル・プラデーシュ州域の北部が2000年に分割され、06年に今の名称となったものである。



ロンティ峰北壁の懸垂氷河と氷河東側の岩壁の一部が崩壊して、岩屑なだれとなって流下し(矢印)、下流の丸囲み地域に被害をもたらした(Raj Kumar Khosla 氏提供)



懸垂氷河の崩壊と、急傾斜岩壁の崩壊が起こったロンティ峰北壁と被災した下流域 (© OpenStreetMap contributors)。この地図は、米国 NASA スペースシャトルによる SRTM 標高データから自動発生させた等高線による。今回のような大きな地変があった場合は部分修正される。リシ・ガンガ沿いの道路・橋と発電所は消去され、Landslide Dam が新たに表示された



インド空軍が撮影した写真(右: 英文で懸垂氷河崩壊跡と岩壁崩壊跡を示す)と、その説明図(ともに、Raj Kumar Khosla氏提供)

崩壊氷河の場所とその現象

BBCは2月10日の記事で、
 ‘Hanging’ glacier broke off to trigger India flood ‘
 この災害の発端をうまく表していた。

場所は、前ページ下の概念図に示すとおりだが、崩壊した氷河域から、大きな被害を受けたタポバン・ダム周辺までの地形を等高線図で見れば、上図のとおりである。災害の2日後に撮影した写真では、ロンティ(6063m)北壁斜面に崩壊し残された氷河の下端(矢印で示す)が見え、その下方は氷河のない露岩域となっている。

そのあたりの左側が暗色の岩壁となつて、下方が茶色く汚れた斜面に見える。それらのことから、先行した氷河崩壊が引き金となつて左側斜面が岩盤崩壊を起こし、それらがともに標高差2000m以上を、爆風を伴う岩屑なだれとして一気に流下し、リシ・ガンガに達したものと思われる。リシ・ガンガ合流地点で、上流側へは崩壊物の一部が逆流・堆積して、小規模な堰止湖ができた(上図)。

なお、「爆風を伴って」としたのは、報道各社の記事中で、上流山間に立ち昇る雲と見まがうものや、

河谷を水煙を伴いつつ疾駆する激流とも見える動画映像による。この地域を中心とするインド北部からネパール西部にかけては、13年6月にモンスーン期の豪雨によって大洪水が起こり、6000人以上が死亡したとされている（最下段の被災地写真も参照を）。

今回の被害は狭い地域に限定さ

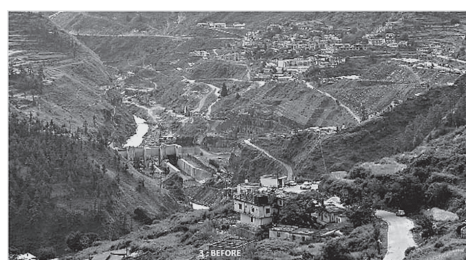


被災後の、下流から見たタポバン・ダム(写真：AFP/アフロ)

月から3ヶ月間続く、12年ごとのヒンドゥー教の大祭「クンブメーラ」が行なわれていて、ガンジス川河岸では、日によっては数十万人の沐浴者で溢れていた。

諸説ある氷河崩壊の報道

報道では「専門家による意見」として、ヒマラヤ山中の酷寒期に氷



れたもので、その岩屑なだれは下流では土石流・洪水化したと思われる。報道で見る限りでは、下流のリシケシやハリドワールでの洪水被害には至らなかった。

ハリドワールでは、1



被災前のタポバン・ダム(上)と、同・リシ・ガンガ発電所(Raj Kumar Khosla 氏、2019年9月撮影・提供)

河が大規模崩落したことも含めて、「地球温暖化の影響」を指摘するものが多かった。確かに多くの地域では、氷河の後退と氷河面積の減少などが続いている。

また、「氷河の底に蓄えられていた水の逸出」を指摘する意見もあった。それは、ときに氷河サージで見られる現象だが、被災地との標高差が大きくはないので、岩屑なだれを惹起しそうには思われない。「上流の氷河湖決壊による洪水」も指摘されたが、Google Earth 画像に見る限りでは、リシ・ガンガ上流域には、大きな氷河湖は見当たらない。

私見だが、懸垂氷河は前進によって時間とともに不安定化が増す



2013年6月の集中豪雨による土石流で埋没した集落跡。ジョシマートの上流で



タポバン・ビシュヌガド発電所の取水ダムへの下降路入り口ゲート(右写真)と、その建設プラント(左写真も含め3点とも2015年7月、筆者撮影)



ので、いつか必ず、真冬でも崩落することはありそうに思われる。その衝撃を発端とした、隣接する急斜面での岩盤崩壊が、下流での被害を大きくしたのではなからうか。

謝辞ほか

この報告は、会報「山」編集人の節田重節会員の急遽のご依頼により、報道内容など(次記)に私見を加えてまとめたものです。

各Web版のBBC、CNN、AP News、Scientific American、The Times of India など、Google Map/Earth の「OpenTopoMap」も。

一部の図版は「日本ヒマラヤ協会」の寺沢玲子氏を介して、インドの Raj Kumar Khosla 氏(元インド石油役員で、デリーの山岳団体所属)からご提供いただきました。当地に詳しい寺沢氏は、同協会の季刊誌『HIMARAYA』496号(2021年春号)に、本件に関して寄稿との由、皆様にご覧ください。

最後に、この災害の犠牲者諸氏のご冥福をお祈りするとともに、美しいガルワール・ヒマラヤの地に再び訪れることのある日を願いつつ、皆様に報告申し上げます。

(科学委員会委員、茨城支部会員)

NEWS

「2020 植村直己冒険賞」は、ドルポで単独越冬した稲葉香さんに

「授賞の電話連絡をいただいたときは、言葉が出ないぐらい驚いて、頭の中で言葉がぐるぐる回って、自分でどう表現していいかわからないぐらいびっくりました」と

記者会見で最初のコメントを發した稲葉香さん(47)。大きく目を見開きながら「電話を切った後、しばらく放心状態で、『本当に私でいいのかしら』とも思ったのですが、最終的には『やっぱり、正直うれしいな』というところに落ち着きました」



チベタン・ドレスをまとって記者会見に臨んだ稲葉さん

した」と続けた。

授賞理由は、秘境の地、西ネパール・ドルポ地域で122日間、単独で越冬してフィールドワークに励んだ冒険に対して。その詳細については、本会報「山」昨年6月号で「女ひとりドルポ越冬記」、機関誌「山岳」第百十五年(2020年)で「西ネパールに魅せられて」と題して、稲葉さん自身がレポートを寄せてくれている。

実は稲葉さんは、18歳のときにリウマチを発症している。ところが、持病を抱えながらも旅を好み、その延長線上で山の本をたくさん読むようになった。それらの中に『青春を山に賭けて』をはじめ植村さんの本が含まれていたと言う。

2001年、「植村直己ストーリーの旅」アラスカ編」と題して、独りでアラスカに旅立った稲葉さん。アウトドアの知識や経験は全くなかったが、植村さんが消息を絶ったデナリを望見するとともに、アラスカの山や大自然に圧倒的な刺激を受けて帰ってきた。

植村さんがエヴェレストに登ったのは29歳のとき。それなら29歳の私もエヴェレストを見てみたい、とネパールへ。飛行機で降り立ったルクラの朝、今度はヒマラヤの大自然に包まれて、人間本来の姿——「素」の自分が蘇ってきたように、一生忘れられない思い出になっていると言う。

さらに旅はエスカレートし、運命的な出会いとなる、同じリウマチ持ちの河口慧海の存在を知る。そこからは慧海の足跡を追ってカイルスやムクチナートを訪れ、2009年には大阪山の会の大西保氏が組織した「西北ネパール登山隊」に初参加、ドルポとの深く、長い付き合いが始まる。

稲葉さんはいつも、「どんなに苦しくても、あきらめてはだめだ!」という植村さんの言葉を胸に、持病のことも、仕事(美容院を経営)のことも、そして資金集めも、多くの人々に助けられながら必死に頑張ってきた。最後に、現代の子どもたちには、「スマホばかりいじってないで、外に飛び出していろいろな、リアルな体験をいっぱいしてほしい」とメッセージを送ってくれた。

(編集部)

地域発「山の日」レポート⑦栃木支部

船村徹先生と「山の日」

栃木支部 水野雅章

故船村徹先生との最初の出会いは、2002(平成14)年に、私が脱サラをして東京から塩谷町に移住してすぐのころであった。ご縁があつて「船村徹ふるさと会」に入会させていただき、先生の酒席にもお招きにあずかり、先生の聲咳に接する機会をしばしば持つこと

ができた。当時から栃木弁(塩谷弁)での語り口は豪放磊落で、自然への敬愛と人への愛に満ちた、「臨場感」溢れる話しっぷりであった(ただし、当初はときどき判別できない言葉も……)。

お母様からいつも「でれすけ」と呼ばれ、叱咤激励されながら、



手打ちそばを召し上がる船村先生(塩谷町「風だより」にて)

船生村(塩谷町船生)の自然を、弱い者をかばいつつガキ大将として走り回っていたこと。東洋音楽学校での生涯の友、早世された高野公男さんと出会って、「俺は茨城弁で作詞するから、お前は栃木弁で作曲しろ」という言葉が、高僧の教えのようにいつも自分を導いてくれる」と語られたこと。ロンドンのオーディション会場で見聞を求められたとき、「あの隅っ

こにいる、汚らしい4人組が良いのでは……」と答え、それがなんとのちの「ビートルズ」で「ビートルズ」を発掘したのは俺だ」と自慢げに語られていたことなど、多くの印象深いお話を伺った。

小学校時代から続いた先生の終生の友「船村徹ふるさと会」谷畑方夫会長によれば、船村徹先生は、子どものころから「美的感性」が優れており、村の背後にそびえ、遊びの舞台となっていた高原山など、自然への愛と畏敬の念が非常に強い方だった、と述べられている。そして、「子どものころに感性を磨くことの大切さ」を主張されておられ、幼いうちから山や自然と親しむことの大切さを強調されていた、とのことであった。

そんな船村先生は、常日ごろから『海の日』があるんだから『山の日』もつくりな。『海があんのに山がねえ』。山・川・海がつながって豊かな風土と産業が育ち、日本人の自然への感性も磨かれる。山と川と海は一体のものだ」と語られ、2008年9月に、地元の下野新聞に『山の日』をつくらうとの論説を寄稿し、「太古から信仰的にも実生活的にも人類にとっては

『山海一体』であった。(中略)今こそ日本国民が心をひとつにまとめて、『山の日』をつくり、国民の祝日とさだめ、おおいに、『山海の友情』を厚くしようではないか」と、『山の日』の祝日化を強く訴えられたのも当然のことと言えよう。

そんな先生のエピソードや『山の日』制定へのご努力の経緯は、多くの方々やメディアで伝えられており、ここで記す必要もないが、直接、船村先生から『山の日』への熱い想いを伺った者のひとりとして、こうしてその一端でもお伝えできれば幸いである。

かつて船村先生が弊社「風だより」にお越しになり、手打ちそばを召し上がられたおりの写真が掲載されているが、写真の先生はそばをほおばりながら『山の日』を大切に、日本の皆が自然に親しみ、自然に感謝する心を持ち続けてほしい」と語られているように感じている。次は『川の日』も……などと冥途で考えられているかもしれないと思うのは、私の考え過ぎだろうか?(初出「全国山の日協議会ウェブサイト」)

(全国山の日協議会会員、「船村徹ふるさと会」会員)



平井一正(ひらい・かずまさ)

会員番号4639

1931年10月31日 岐阜県生まれ

1950年 京都大学山岳部入部

1958年 京大チョゴリザ遠征隊に参加、同峰に初登頂

1962年 京大サルトロカンリ遠征隊員

1964年 京大から神戸大に赴任

1965年 神戸大山岳部副部長就任

1976年 シェルピカンリ遠征隊長

1986~1995年 神戸大山岳部部長

1986年 クーラカンリ遠征総隊長

1997~2006年 神戸大山岳部会長

1988年 チェルー山名誉隊長

2003年 ルオニイ峰遠征隊長

2010年 瑞宝中綬章を授与される

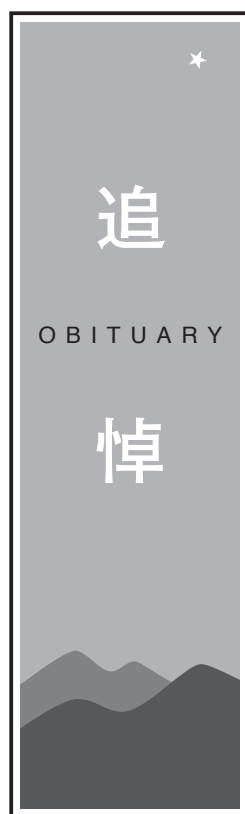
2021年2月15日 逝去、享年89

平井一正先生を偲んで

井上達男

神戸大山岳部に入部早々、先生の研究室を訪ねたのは1966年のことだった。先輩から「チョゴリザに初登頂された、すごい先生がおられるから挨拶に行け」と言われたのだった。小柄な先生が、厳しい表情で迎えてくれた。緊張して「山岳部に入った新人です」と挨拶したら、途端ににこやかになられ、親しく歓談していただいた。以来54年間、ご指導と親交をいただいた。

先生の生涯5度にわたる海外遠征はすべて未知、未踏への挑戦であった。初めてのリスクは極めて大きい。達成の喜びは計り知れない。また、全ての遠征で犠牲者を一人も出さずに成功されている。ご本人は「幸運の女神に恵まれたのだ」と。先生はその経験を我々後進にも存分に体験させてくれた。先生からは「未知の谷は下るな」「登山記録は必ず残せ」「目標を定めたら実現に努力を惜しむな」「近郊の山でも装備に手抜きはならない」「人との出会いは大切にせよ」など、山登りとそれ以外にも人



としての生き方も数多く教わった。1986年、初登頂したクーラカンリ隊には中国地質大学(武漢)の学生が協力員として参加した。その何人かが中国登山協会の幹部となった。なかでも李致新氏は現在、協会のトップとして活躍している。1988年のチェルー山は、神戸大学と中国地質大学の学生が合同で初登頂した。その後、ロプチン峰もタリ峰も同大との合同で成功している。合同登山は異文化の対峙で共同が難しいが、「苦労して築いた友好は日中の相互理解に貢献できる」と、先生は信念を持つて関係継続をリードしてくれた。2006年、神戸大山岳部会長を勇退されるとき、「後を引き受けよ。拒否権なしだ。やってきた未知への挑戦を継承するのは君の責務だ。」と説得された。ヒマラヤの初登頂時代と違い登山は多様化し、未踏峰はなくなつたと言われる昨今、課題は難しくなつた。「キノコは千人の股をくぐる」――学問のテーマ探しの教訓だ。西堀榮三郎先生の教えを伝授していただいた。早速、勉強に手を付けると、未踏の山々ニイチェンタンゲラやカンリガルポ山群が見付かつ

た。しかも、カンリガルポは、先生が挑戦されたルオニイ峰を筆頭に6000m峰が40座以上あり、全てが未踏峰だった。1976年、先生が隊長だったシェルピカンリの初登頂に満足していた私に、「太った羊になるより、飢えた狼であれ」と叱咤激励された。2009年、カンリガルポのロプチン峰初登頂、2015年、ニイチェンタンゲラのタリ峰初登頂は、先生晩年のご指導の賜物だ。もちろん無事故であった。2011年8月、もうすぐ80歳の先生から「黒部の赤牛岳に登りたい。一緒に行ってくれるか」と電話があつた。2010年9月には、先生が登り残していた塩見岳に同行した。今回を最後の大きな山行にしたい、とのことだった。太郎兵衛平、雲ノ平、水晶岳を経て赤牛岳に至り、黒部湖に下山する3泊4日の旅だ。私一人では有事に対応ができないと考え、頼りになる仲間二人に参加してもらった。先生はゆつくりとした歩き方だったが、気丈に山を楽しまれた。奥黒部ヒュッテから黒四ダムまで、アップダウンが延々と続く道は、きつかったことと思われる。

連載■島の山旅への誘い④

隠岐諸島

—大満寺山、高田山、焼火山、高崎山、アカハゲ山など

節田重節

隠岐諸島の山概説

隠岐諸島は島根半島の北40〜80kmの日本海に浮かぶ島々で、東の「島後」と、「島前」と呼ばれる西の牧歌的な景観の3島（中ノ島、西ノ島、知夫里島）から成り立っている。第三紀層の基盤の上に、第三紀中新世以来噴出した溶岩が累積

中央火口丘として、それを取り囲む山々と知夫里島、中ノ島を外輪山とする、約630〜530万年前のカルデラ火山で、その姿を今に見せてくれる。

島は2013年、「ユネスコ世界ジオパーク」に認定され、4つの有人島と180余の無人島を含め、隠岐諸島を取り巻く環境そのものがジオパークとなっている。

島の周りを流れる対島暖流の影響で内地より暖かく、冬季の積雪量は中国地方北部より少ない。そのため北方系と南方系の植物が混在しており、さらに大陸系のものも加わって、独特の生態系が維持されている。

島は2013年、「ユネスコ世界ジオパーク」に認定され、4つの

有人島と180余の無人島を含め、隠岐諸島を取り巻く環境そのものがジオパークとなっている。

諸島の最高峰は島後東部にそびえる大満寺山で、小粒だが形の良いた高田山が島後の南西部に鎮座している。島前に移ると、中ノ島には高い山はなく、西ノ島の焼火山と高崎山が登山対象となる。特に高崎山は植物相が面白く、登山



鷲ヶ峰の先の展望岩頭から見た大満寺山北面

道整備ができれば人気が出てくるのではないかと知夫里島の西部はアカハゲ山が占めている。

登山適期は通年だが、やはりオキシヤクナゲが咲く5月から6月が最適で、照葉樹と広葉樹が混生している

ので、紅葉の秋も楽しみな季節。地元では登山を通年型観光のテーマとして位置付けようと企図しているが、積雪期に関しては情報発信と受け入れ態勢が未整備なので、今後に期待したい。

主な山の登山ガイド

▲島後・大満寺山

島後の東部中央、608mの一等三角点が置かれた大満寺山は、隠岐諸島の最高峰である。登山コースはいくつかあるが、まずは、かつての表登山道である有木川からのルートを紹介しよう。

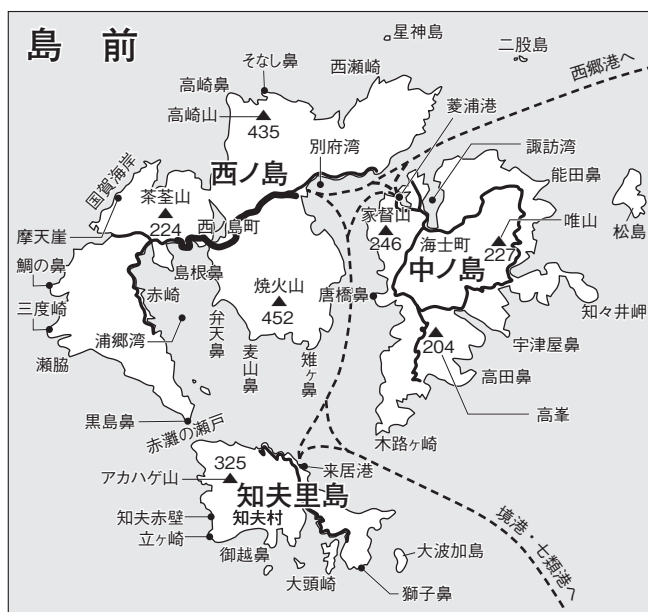
有木集落から有木川沿いに北上し、その源頭が登山口となる。沢



沿いから尾根道に移って急登すると、地図に点マークのある曹洞宗大満寺の境内に至るが、寺はほぼ倒壊している。さらに樹間がぼつかりと開いた「窓杉」を過ぎると、主稜線のコルに出る。ここには南谷林道からの道が上がつて来る。

大満寺山は吊り鐘状の玄武岩からなる溶岩丘で、コルからは急登となる。岩のゴロゴロした尾根をたどって山頂に立てば、南側に西郷港や隠岐空港が俯瞰でき、かなたに大山や三瓶山も遠望される。有木川登山口から山頂まで1時間30分。

一方、南谷林道を利用して、この山の中腹にある、樹齢800年



と言われる「乳房杉」見物と併せて歩くなら、林道登山口から前述の主稜線のコルに出て、山頂を越えて北北西に向かい、南谷林道が主稜線を西側に越える峠から下り、乳房杉を見て登山口に戻る周回コースが手軽に大満寺山を楽しめる。周回コースで1時間。

さらに縦走コースもとれる。南谷林道が越える峠から再び登山道に入り、つづら折りの道から固有種のオキシヤクナゲの中、鉄バシゴを登ると鷲ヶ峰(555m)の標

柱と三角点がある。この先の岩頭に立つと、見事な柱状節理の屏風岩を展望することができる。

鷲ヶ峰から急下降すると神原高原で、ここから中谷駐車場につながることもできる。さらに主稜線の縦走を続けると、550mピークの東側に張り付く「トカゲ岩」(全長26m)を見物して、中谷駐車場に下山して縦走を終える。

南谷林道が越える峠から中谷駐車場まで1時間30分。

▲島後・高田山

高田山(315m)は島後の南南西部、都万の入り江のそばにそびえる信仰の山で、吉田拓郎の『都万の秋』(作詞・岡本おさみ)に歌われている風景を見下ろしている。「屋那の舟小屋」がある都万漁港から高田神社の脇を登り始める。いきなり急登で、右手に柱状節理



「屋那の舟小屋」(左)と都万漁港を見下ろす高田山

の断崖を眺めながら高度を上げる。細長い山頂はヤブツバキの密林で、下山は少し北に下って直角に左へ折れる。愛宕山、殿山を経て集落に降り立って振出しに戻る。周回コースで2時間。

▲島前／西ノ島・焼火山

島前で一番大きな西ノ島の南部に位置する焼火山(452m)は、島前カルデラの中央火口丘である。八合目付近に焼火神社があり、諸国の船乗りたちの海上信仰の対象となっている。明治以前は焼火山雲上寺と称していたが、明治新政府による神仏判然令を受けて現社名に改めている。

コンクリート舗装の参道を上る



神仏混交の香りが漂い、幽邃な雰囲気焼火神社



摩天崖の頂上から遠望した高崎山(左)に至る稜線

神社から山頂まで、平成5年に名前の付いた遊歩道が整備されている。山頂にはテレビ局の鉄塔と三等三角点があるが、残念ながら展望はあまり良くない。北に10分ほど下った所に展望スポットがあり、中ノ島から島後まで見渡せる。登山口から山頂まで1時間。

▲島前／西ノ島・高崎山

西の島の北端に位置する高崎山(435m)は、南方系と北方系、さらに大陸系植物が入り混じる希少植物の宝庫と言われる。ニリンソウやヤマシヤクヤク、ホタルカズラなど、ほかの地域では見られない珍しい植物が多く、毎年4月、西ノ島町の教育委員会が自然観察会



アカハゲ山から見た島前カルデラ 撮影＝渡部秀樹

を催している。

高崎山の登山口は別府港から車で40分、島の西側に位置する船越集落へ抜ける林道が越える峠となる。一応入り口に指導標はあるが登山道は踏み跡程度で、来春までには整備される予定とのこと。

この山では、昭和30年ごろまで「牧畑まきはた」農法が行なわれていた。今でも放牧だけは続いており、登山道には牛の落とし物がたくさんあるので注意が必要だ。

登山道は主に稜線の西側をトラ

バースしながら、優占種であるスダジイやヤブツバキ、カヤなどの森を抜けて山頂に至るが、山頂直下に小祠や廃寺跡がある。その先のヤブを抜けると展望の利く岩場で、「白滝」と呼ばれる山頂南面の岩壁が見渡せる。少し戻って山頂に立つが、展望は期待できない。登山口から往復3時間。

▲島前／知夫里島・アカハゲ山

知夫里島の西部に位置するアカハゲ山(325m)へは、来居港から車なら20分ほどで上がれるが、牛たちが草を食む、のどかな道をハイキングしてみよう。全部車道歩きとなるが、一等三角点のある山頂に立てば展望台があり、カルデラ湾に浮かぶ島前の島々や、遠く島根半島や大山を望むことができる。

なお、知夫里島は、島のほとんどが放牧場として利用されており、アカハゲ山にも「牧畑」農法の名残である「名垣みよがき」という仕切りが残っている。

山頂から南に下ると、知夫里島きつての名所「知夫赤壁ちふへき」がある。高さ200mもの断崖で、国の名勝天然記念物に指定されている。来居港から山頂まで1時間。

山旅のメモ

隠岐諸島へのアクセスは、空路は出雲縁結び空港または大阪国際空港から隠岐世界ジオパーク空港へ。海路は島根県・七類港しちるいまたは鳥取県・境港からフェリーと高速船が、西郷港はじめ各島の港に運航している。そして、島後と島前間もフェリーと高速船が運航しており、島前の3島間は内航船が定期運航している(1区間300円)。

島内の移動は路線バスの本数が少ないので、レンタカーかタクシー、あるいはレンタルのEーバイク(電動アシスト自転車)での移動が勧めだ。ただし、すべて数が少ないので早めの予約を。

なお、諸島内に点在するジオサイトを訪れる前に、「隠岐自然館・隠岐ユネスコ世界ジオパークビジターセンター」(島後・西郷港のすぐ前 ☎08512121583)に立ち寄り、事前学習されることを勧める。ジオパーク全体についての問合せは「隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会」☎08512131321へ。

協力Ⅱ 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

(千葉支部会員)

早稲田大学山岳部は長い歴史と伝統に培われてきた老舗の山岳部であり、登山史の一翼を担ってきた名門でもある。本書は、その早稲田大学山岳部の部報『リュックサック』の100周年記念号である。記念号というからには、ただ歴史を振り返るだけでなく、そこから導き出された「次」を志向するという命題も課せられているはずだ。最近の社会状況を反映して、就職活動の早期化と長期化、教育プログラムの変更や留学推奨など、現役部員の活動が制限されかねな



2020年11月
早稲田大学山岳部
A4変形判 344頁
非売品

リュックサックW 100周年記念号

早稲田大学山岳部編



図書紹介

い厳しい状況に置かれているなかで、その「次」を見出そうとする新たな試みが模索されている。

本書は3つの大きなパートから構成されている。1部は「早稲田の山100年」と題して、過去100年の歩みがとてもコンパクトな通史としてまとめられている。2部は「山岳部のいま」と題して、これまでの10年間の活動を歴代主将が、2020年以降を「未来フォーラム」の記録からまとめられたものである。そして、3部は「山と人 その時代」として、歴史的な記述や最近の寄稿まで、世代がまんべんなくつながるよう構成されている。そして、最後が資料編。

この記念号のなかで際立っているのが、2部の「未来フォーラム」のページで、将来の山岳部のあり方を見据えて模索している部分である。都合5回に及ぶフォーラム

図書受入報告(2021年3月)

著者	書名	頁/サイズ	発行者	発行年	寄贈/購入別
谷口哲(著)大村芳峰(編)	幻のエンレイソウを求めて：谷口哲の北海道史 I	140p/30cm	ILCA+	2020	編者寄贈
谷口哲(著)大村芳峰(編)	幻のエンレイソウを求めて：谷口哲の北海道史 II	154p/30cm	ILCA+	2020	編者寄贈
谷口哲(著)大村芳峰(編)	幻のエンレイソウを求めて：谷口哲の北海道史 III	198p/30cm	ILCA+	2020	編者寄贈
伊佐九三四郎	熱帯の山寒冷の国：伊佐九三四郎歌集	127p/20cm	青磁社	2021	著者寄贈
伊藤久次郎	木版画集 青春の思い出	94p/30cm	伊藤久次郎(私家版)	2020	著者寄贈
藤原章生	ぶらっとヒマラヤ	239p/18cm	毎日新聞出版	2021	出版社寄贈
山形県山岳連盟(編)	チベットの聖山 ヤラシャンボ初登頂：山形県山岳連盟創立50周年記念登山	188p/30cm	山形県山岳連盟	2021	発行者寄贈
ライチョウ会議(編)	第19回ライチョウ会議 ギブ大会 講演要旨集	36p/30cm	ライチョウ会議ギブ大会	2020	発行者寄贈
宮坂七郎	信州の山 北部上巻 217山(新版)	164p/30cm	信毎書籍出版センター	2021	著者寄贈
宮坂七郎	信州の山 北部下巻 134山(新版)	100p/30cm	信毎書籍出版センター	2021	著者寄贈
宮坂七郎	信州の山 中部上巻 217山(新版)	172p/30cm	信毎書籍出版センター	2018	著者寄贈
宮坂七郎	信州の山 中部下巻 180山(新版)	151p/30cm	信毎書籍出版センター	2018	著者寄贈
宮坂七郎	信州の山 南部 326山(新版)	271p/30cm	信毎書籍出版センター	2017	著者寄贈
大塚忠彦(編)	JAC01会のあゆみ 第3号 終刊号：2002～2021	163p/30cm	日本山岳会 JAC01会	2021	発行者寄贈
宇根寛	地図づくりの現在形：地球を測り、図を描く(講談社選書メチエ No.741)	253p/19cm	講談社	2021	購入
Wolownick, Dierdre	The Sharp End of Life : A Mother's Story	256p/24cm	Mountaineers Books	2019	購入
Edmundson, Henry	Tales from the Himalaya	423p/24cm	Vajra Books	2019	購入
Alter, Stephen	Wild Himalaya	402p/23cm	Aleph Book	2019	購入

は、シニア、中堅、若手各OB、監督、コーチ、学生など、世代を超えて、また立場を超えて討論されたものの集約であり、慶應義塾、北海道大学と、大学を超えて率直な意見交換がなされた内容が議事録を添えてまとめてある。現状の分析と目指す方向性を明らかにし、内容が議事録風に掲載されているため、どこからでも読みやすい構成になっている。

今回の記念号で編集の中心になった委員3人の世代が絶妙なバランスで構成されていて、それが本書の特徴のひとつになっている。世代によって山岳部が直面する問題も考え方も異なっていたはずで、世代の隔たりが相互にうまく補完し合って、適切な距離を持って編集されているのがよく分かる。

そして、次に目を引くのが装丁の美しさであろう。A4変形の判型に表紙を並製の厚紙にして、エンジの早稲田カラーを配色、題字は銀の箔押しと、豪華でありながら抑えるところは抑えた作りになっている。ページ数も適度な分量であり、軽めの箱入りで、全てに目配りの利いた本のたたずまいが光っている。



2020年9月
集英社インターナショナル
四六判 251頁
定価2000円＋税

人間の土地へ

小松由佳著

それぞれが現役で活躍した時代は、それぞれの思い入れも状況も当然異なっていたわけだが、それを支えていたのが早稲田大学山岳部の伝統の力であろう。そこには濃厚な人と人とのつながりがあつた。山岳部も20年くらい活動が低迷し、部の存続が危ぶまれた時代があつたという。しかも度重なる部員の遭難事故に苦悩したことも多かったはずである。それでもそこから這い上がってこられたのは、伝統に基づいた「復元する力」があつたからだという。しかもこうして活字として残すことによって、「次の1年」の扉が開かれたはずである。

(神長幹雄)

著者は2006年にK2の登頂に成功し、下山の遅れから8200mで苦しいビバークの上、翌日の深夜にBCへ帰還した。20代で登頂、生還した数少ない女性ということになる。登頂と生還の回想(第1章)は、感動と余韻を冷静に詳しく語っていて読み応えがある。翌2007年、シスパーレ北面新ルートに挑んだが敗退した。この遠征を機に、著者の関心は危険な高峰登山から山麓の風土に根ざす村人の暮らしに惹き付けられていったという。

2008年からは中国から西へ草原や砂漠の旅を続け、山岳民族や砂漠の遊牧民を訪ね、写真と文章で伝えることに没頭することになる。本書の大部分は、シリア砂漠でラクダの放牧や商店を営むアラブ系の大家族との出会いと交流が詳しく伝えられた体験ノンフィクションだ。

2010年から「アラブの春」と言われる反政府運動で独裁政権の多くが崩壊したが、シリアのアサド独裁政権は武力弾圧を強め、血なまぐさい内戦状態が現在も続く。著者が親しくする家族も政府軍と反体制派に引き裂かれ、家を失い

寄附金および助成金などの受入報告 (令和3年2月28日まで)

寄附者など	受入金額など (単位千円)	寄附の目的、その他
江川 知史 会員	100	マウンテンカルチャークラブ(MCC)及び総務委員会運営費
佐怒賀 義邦 会員	50	日本山岳会運営費用
匿名希望	30	日本山岳会運営費用
越後支部会員 他12名	210	高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金

(別紙) 高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金受入報告 (順不同、敬称略)

10万円	野地誠
3万円	尾野益大
1万円	野澤誠司、日崎貞良、三品京子、松下征文、小林頼雄、北原孝治
(1万円未満4名の氏名省略)	

転々と避難生活が続ける。イスラム宗派間の確執も安定した暮らしを脅かし、一家は離散する。著者は家族の十二男と恋に陥り、結婚して大波乱の生活を送ることになる。このあたりを避難民の家族を軸に危険にさらされながら破天荒な行動力で取材を続けた。酸素が希薄で無垢の自然の中での冒険活動からアラブの民の中で暮らし、イスラム教徒になったやまとなどしこ(秋田県出身)のたくましさや優しい心根を痛感する一書でもある。今は4人の家族と暮らしながら取材と執筆活動が続けている。私たちには難解なアラブ諸国の

抗争やイスラム世界を理解する好著としてもお薦めしたい。

(松澤節夫)

富士山考古学研究会編

富士山噴火の考古学 火山と人類の共生史



2020年7月
吉川弘文館 345ページ
A5判 4500円＋税

富士山は高さが日本一であるだけでなく、山麓の面積も大きく、現在も活動が続けている世界有数の活火山である。活火山の山麓では、山体崩壊、溶岩流、火砕流、テフラ（軽石、スコリア、火山灰）などによ

会員優待サービス施設追加の お知らせ(会員サービスWG)

- *【北アルプス】オーベルジュ
ちく／宿泊料金の5%引き
- ① 0261-83-3021
- ② 同右

- *【東北南部】三春の里田園生
活館／宿泊料金の10%引き
- ① 0247-62-8010
- ② 同右

る災害を受ける。富士山の火山活動史は災害史でもあることになる。火山学では、富士山の噴火活動史を含めた周辺への影響を知りたい。しかし、記載記録が残っているごく最近の活動を除くと、小さな活動などはまだ分かっていないものがあり、その活動が、人間生活にどのような影響を与えたかは当然分かっていない。

一方、遺跡調査には富士山の小さな、あるいは古い活動の証拠も含まれている。遺跡によつては、災害の記録が残っているものもある。両分野の研究成果を合わせると、富士山の活動による災害史を詳細に知ることができる。すなわち、火山災害の防災資料になる。このように点に着目して、富士山周辺（静岡、山梨、神奈川）の考古学研究者と山梨県立富士山科学研究所の火山学者などにより「富士山考古学研究会」が誕生した。本書は2016年に開かれた研究会以降の活動の成果として出版された。

しかし、4年間では両分野の研究目的の確認はできたものの、その目的を確認する遺跡調査はなく、過去の調査結果を再録したものが

ほとんどである。掲載されている遺跡トレンチの図は報告書のコピーそのままなのか、多くの場合文字が小さく判読困難なものもある。テフラ（スコリア）はその存在が示されているだけの場合が多い。また、土器のスケッチが多数示されているが、火山活動による形、模様の変化に対する説明は皆無なので、掲載の目的が不明である。著者によると、遺跡の年代（絶対年代）を土器の形、模様による土器編年（相對年代）から求めているものが多く、火山活動の年代（絶対年代）と一致することは期待できないのも問題である。

細かい点では用語の使い方が両分野で異なっていることも気になる。今後本来の目的に沿った両分野の新しい研究成果を基にした第2編が遠くないうちに出版されることを期待したい。テフラの対比（同定、考古の著者は比定と記している）手段として、化学組成から行なうことが多いが、富士山の場合、化学組成が類似しているためこの方法が困難であるという問題がある。そこで、筆者は年代値とテフラの対比の精度を上げるために、ごく少量含まれている花粉に着目

山研利用受け付け開始の お知らせ

山岳研究所運営委員会は、5月3日より開所する山研の利用受け付けを開始します。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染防止のための対策を十分に講じてまいります。利用者の皆様には寝袋を持参いただくなど負担をお掛けしますが、ご了承ください。完全予約制で先着順です。

定員Ⅱ最大5パーティ15名まで。
予約方法ⅡTEL/FAX 0263-9512533 または ken@pomci.or.jp へご連絡ください(担当Ⅱ山研管理人・山田和人)。

*滞在中は飲食・就寝時を除きマスク着用をお願いします。

*利用時は寝袋を持参ください(敷布団・枕は提供)。

*現地では管理人の指示に従って安全な行動へのご協力をお願いいたします。

詳しくは「さんけんブログ」

<https://jac-sanken.blogspot.com> をご覧ください。皆様のご来所をお待ちしております。

(山岳研究所運営委員会)

することを推奨したい。花粉の種類から噴火の季節が分かるので、対比の精度が向上するはずである。

この研究会発足後の唯一の考古学的成果として、1707年の宝永噴火により3m深のスコリアに埋没した、静岡県小山町須走の浅間神社と門前町須走集落の発掘調査は、注目すべき結果がコラム欄で紹介されている。本調査の結果は江戸時代の富士講の姿の化石でもあると期待されるので、今後のさらなる調査が期待される。

さらに、8世紀の静岡県小山町の上横川遺跡から当時の足柄古道と思われる通路が発掘調査と音波探査から推定されたのは、日本山岳会120周年記念事業で取り上げられるべき古道に対する、嬉しい情報であることを付記する。

(福岡孝昭)

石川直樹著

地上に星座をつくる



2020年11月
新潮社 302頁
四六判 1750円+税

写真家であり、登山家、冒険家でもある石川直樹のエッセイ集で、月刊『新潮』に連載された2012〜2019年の作品から50篇を時系列に収録している。

空路で世界中を飛び回るビジネスマンはいらぬだろう。しかし、8000mの高みにも登れば、ユーコン川をカヌーで下るし、北極圏にいたかと思えばペルーにいます。これだけ地球上を縦横無尽に移動している人はいないのではないかと、連載開始前年に2度目となるエベレストに登り、連載中にマナスル、ロツツエ、マカルー、ガッシャーブルムIIの8000m峰に登っている。K2とブロードピークは登れなかったが、ほかにアマ・ダブラム、デナリにも登っているのである。

山のエッセイと思いきや、たとえば2ヶ月のヒマラヤ登山から帰ったのわずかな間に、北海道から沖縄まで国内各地を巡っている。ワークショップもあれば、撮影行、個展、講演会などもこなしている。決して海外だけに目を向けているわけでもない。身体は大丈夫なのかと心配になるが「咳き込みながら、パリ」との一文があり、身体がぼろぼろとの表現もある(「ユーコ

ン漂流」)。もともと人類学、民俗学に関心があり、辺境の祭やミイラの少女など、見たいと思ったら矢も盾もたまらず行ってしまう著者であるが、好奇心旺盛な旅のこのだけが書かれているわけでもない。印象に残るのは、斜里の小学生との写真のワークショップ。子どもの感性を大切に、丁寧に対応する。それは、おそらく写真家としての自身の感性を大事にしているからだろう。

K2に登れなかったことは相当悔しかったようで、「僕は悔しい」にその思いを書いている。東日本大震災の後に宮古の高校生との交

流を重ね、福島も定期的に訪問している。自分に素直で純真な心の持ち主なのだと感じた。

あとがきに「山形、ネパール、バングラデシュ、ムスタン、国東半島、韓国、ペルー、福島、ヒマラヤ……」(紙面の都合でとても書き切れない)と「本書に出て来る国や地域」は「まったくもつてとりとめがない。」が「地名も、そこでの経験も、それらについて紡いだ一文一文も必ず何かと繋がらう。(中略)それぞれの断章は星として瞬きながら、また別の星と接続して無限の星座を形づくる。」とあり納得した。

(荒井正人)

会務報告

令和2年度第11回(3月度)理事会

議事録

日時 令和3年3月10日(水)19時
場所 集会所およびオンライン

(Zoom)

【出席者】 古野会長、野沢副会長、

報告

永田・萩原・古川各常務理事、安井・清登・清水・飯田・柏・近藤・各理事、石川監事

【欠席者】 坂井・山本副会長、黒川監事

【オブザーバー】 節田会報編集人

【審議事項】

1・令和3年度事業計画案について審議した。(賛成11名、反対なしで承認)(永田)

2・令和3年度予算案について審議した。(賛成11名、反対なしで承認)(古川)

【報告事項】

1・新入会員(会員78名、準会員2名)の承認について報告があった。(古野)

2・会費滞納による除籍予定者について報告があった。(永田)

3・寄附の受け入れについて報告があった。(古川)

4・公益事業の中止について報告があった。(古川)

5・令和3年度委員会等の査定の概要について報告があった。(古川)

6・短期山岳保険の開始延長について報告があった。(古川)

7・支部連絡会議および全国山岳古道調査会議について報告があった。(永田)

8・理事の任期について報告があった。(古野)

9・会員名簿について報告があつた。(節田)

た。(永田)

10・DM委員会からの報告があった。(清水)

11・登山計画書提出状況について報告があった。(山本、永田)

12・「第40回日本登山医学会学術集会」の名義後援依頼について報告があった。(古野)

13・公益法人運営委員会での検討内容について報告があった。(古野)

14・「山」3月号について報告があった。(節田)

ルーム目誌 3月

2日 常務理事会 アルピニズムクラブ

9日 財務委員会

10日 理事会

11日 九五会

12日 図書委員会

17日 つくも会

19日 会報編集委員会

22日 アルピニズムクラブ

23日 00会

26日 スケッチクラブ

27日 青年部

30日 資料映像委員会

3月来室者 97名

會員異動

物故

瀧島 清(5926)	21・2・不明
石橋正美(8091)	21・2・28
三浦勝幸(8512)	21・3・1
退会	
前田清子(4571)	山梨
小野寺正英(7793)	岩手
大田譲治(7969)	福岡
井上隆夫(7986)	越後
名塚達夫(8322)	
村松紀夫(8616)	福岡
阿部明義(9313)	福岡
河合俊男(9342)	静岡
遠藤 勉(9858)	京都・滋賀
前田 司(10095)	京都・滋賀
山本誠治(10150)	四国
新井 浩(10802)	関西
白田毅弘(10829)	
長谷川啓子(11050)	北海道
井口智博(11185)	東京多摩
菅 勲(11568)	東九州
猪又敦子(11792)	岐阜
鶴田泰子(11963)	神奈川
渡辺 誠(12190)	山形
小林重弘(12253)	越後
高橋正英(12257)	越後
町田週一(12341)	
今田英司(12424)	東海
松原六郎(12483)	福井

谷路一昭(12541)	石川
久峯慧子(12563)	宮崎
前田忠昭(13110)	福井
徳永泰朗(13134)	
園田暉明(13135)	東九州
平井康司(13477)	東京多摩
平井安乃(13478)	東京多摩
檜山重幸(13512)	
稲垣甚一郎(13554)	富山
井ノ口孝臣(13714)	広島
川村利子(13801)	埼玉
齋藤知茂(13839)	埼玉
武内浩子(14007)	
花岡潤吉(14049)	
山口允彦(14086)	
大塚守雄(14349)	広島
大木康子(14498)	北九州
土屋 繁(14585)	北海道
渡邊信一(14589)	千葉
高橋慎一(14622)	岩手
小熊宏之(14658)	茨城
丸山省造(14733)	京都・滋賀
直江俊式(14775)	
高橋初代(14856)	越後
井川正光(14917)	広島
佐野 敦(14984)	北九州
星野善久(14994)	
西田 茂(15023)	石川
小川三千男(15043)	静岡
小川峰子(15044)	静岡

浅井隆宣(15075)	東海
吉田賢治(15169)	関西
那須哲郎(15260)	岐阜
高橋廣貴(15374)	東九州
原 弘樹(15510)	広島
剣山頂上ヒュッテ(15530)	四国
小原香里(15532)	広島
飯田祐一郎(15681)	
松井洋子(15693)	茨城
牛嶋敏明(15701)	東海
井澤順子(15714)	茨城
水井将博(15782)	東海
浅野将人(15885)	東海
船津界成(15893)	
川尻久美子(15972)	
澁澤和子(16063)	山梨
日比野重成(16322)	東海
今西美沙子(16325)	関西
長岡 進(16370)	京都・滋賀
山村正人(16379)	山梨
矢口せつ子(16592)	岐阜
新井田裕治(16058)	宮城
松川勇治(16069)	福島
中原久枝(16096)	東京多摩
上田健司(16098)	
能美 清(16114)	
中嶋大介(16119)	石川
山本敦子(16139)	広島
武井敦子(16161)	
猪股尚美(16178)	

高野正明(16186)	山梨
小笠原真美(16207)	
福田直樹(16335)	山梨
長田晴人(16341)	東京多摩
在籍期限終了離籍	
山内友紀(16050)	
神戸真樹子(16056)	東京多摩
指田久子(16061)	東京多摩
山田ふき子(16063)	宮城
小林万里子(16067)	東京多摩
比留間祐也(16070)	東京多摩
岡山明子(16075)	埼玉
大嶋 憲(16076)	
石鉢宗男(16077)	東京多摩
畠山真貴子(16081)	
三宅淳子(16084)	
荻原 睦(16085)	静岡
佐伯 博(16090)	
日比野進(16093)	
加藤晶子(16095)	
佐藤泰秀(16107)	山形
竹内美春(16110)	
西村明美(16113)	
柳田泰則(16118)	東京多摩
佐藤勝彦(16120)	
金 有榮(16121)	東京多摩
関根能男(16122)	東京多摩
馬場昌敏(16125)	熊本
正会員に移行離籍	
人見茂子(160036)	東京多摩

◆南八ヶ岳縦走の案内

山行委員会

6月上旬の八ヶ岳は高山植物の開花時期です。わずかな場所ですが咲かないツクモグサに会いに、ハシゴや鎖の連続する登山道を楽しみに出掛けませんか。

I N F O R M

インフォメーション

A T I N

関口順子(A0041) 東京多摩
原 義宣(A0043) 福岡
解良知子(A0045) 東京多摩
石川さとみ(A0046) 東京多摩
小池清次郎(A0048) 東京多摩
山内ひとみ(A0049) 東京多摩
上森文子(A0051) 関西
三ツ井祐子(A0052) 東京多摩
石崎徳子(A0054) 東京多摩
金 英美(A0055) 東京多摩
遠藤幸壽(A0059) 宮城
奥山陽子(A0062) 東京多摩
檜垣保子(A0064) 東京多摩
菊川倫子(A0066) 東京多摩
中島かよこ(A0073)

畑島富士子(A0079)
菅原純悦(A0080) 岩手
濱野恒治(A0082) 福井
江口 健(A0091) 越後
中尾理絵(A0092) 東京多摩
中川恵美子(A0097) 山梨
中村真由美(A0101)
野村好子(A0104) 関西
市川啓子(A0105) 静岡
原田裕子(A0109) 静岡
中田 彩(A0117) 千葉
小山勝稔(A0123) 岩手
齋藤忠利(A0157) 岩手
服部博子(A0254) 北海道
小野康子(A0276) 埼玉

日程 6月12日(土)～6月14日(月)
集合 12日 茅野駅9時15分
行程 茅野駅⇨桜平⇨硫黄岳⇨硫黄岳山荘(泊)⇨横岳⇨赤岳⇨権現岳⇨青年小屋(泊)⇨編笠山⇨観音平⇨小淵沢駅
解散 14日 小淵沢駅12時ごろ

参加費 2万7000円

募集 12人

申込み 5月20日までに中原三佐

代宛 090-2652-2

450 sanko@jac.or.jp

*申込み者に詳細案内をお送りします。新型コロナウイルスの影響により、変更または中止の場合があります。

訂正

◆会報2月号(909号)の13ページ、「寄附金および助成金などの受入報告」(別紙)内の寄附者名「酒井広志」様とあるのは「坂井広志」様の誤りでした。坂井様はじめ、関係の皆様には深くお詫び申し上げます。

◆同3月号(910号)の4ページ、茅ヶ岳の写真キャプション「(左)」は「(右)」の誤りでした。訂正いたします。

◆同号16ページ、図書紹介欄『山あれば人あり』本文末尾の宛先表示で「相模原市中央区共和3-9-14」とあるのは、「3-9-15」の誤りでした。訂正いたします。

(公報編集委員会)

◆編集後記◆

●今月上旬は、松田宏也・千葉支部長らと「沼津アルプス」を歩いてきました。昨秋の「湘南アルプス」や「三浦アルプス」に続く「アルプス・シリーズ」です。絶好の天気にも恵まれ、駿河湾を道連れに新緑や足元の花々を愛でながらのミニ縦走は、コロナ禍を忘れさせてくれるような一日でした。

●全国には「ご当地アルプス」がたぐさんあります。東京近辺では「鎌倉」や「長瀨」がありますが、どうも西日本に多いようで、「湖西(静岡・愛知)」「金勝(滋賀)」「紀泉(和歌山・大阪)」「多紀(兵庫)」「須磨(同)」「和気(岡山)」などが知られています。次は「瀬戸内(山口・周防大島)」か「観海(熊本・天草上島)」あたりを歩いてみたいものです。

(節田重節)

日本山岳会報 山 911号

2021年(令和3年)4月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビューハイイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 古野 淳

編集人 節田重節

Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社